

『光の子どもらしく③』

'23/01/22

聖書箇所：エペソ人への手紙 5章 8-14節（新約 p.379）



皆さんは、こんなことを聞いたり…、あるいは、考えたりしたことはありません？「もっと後で、信仰を持っていたら良かった…」。例えば、この地上で好き放題に生きて、死ぬ直前に救われたら…、それが1番良いタイミングだ…」なんて…。まるで、イエス様を信じて、救われた後の信仰生活が、窮屈で、退屈なもの、あるいは、ただ苦しいだけのものであると言っているようです。…でも、本当にそうなのでしょう？神様は、私たちに、「お前たちを救ってやるんだから、せめて、信仰を持った後くらい、苦しんで…、我慢して…、信仰生活を送っていきなさい！」なんて…、そんなことをおっしゃっておられるのでしょうか？

命題：光の子どもらしい歩みとは、どのようなものなのでしょう？

恐らく、今日のみことばは、そういったことに対しても…、ある程度の答えを与えてくれるものであるように思います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 5:8-14 をお開きください。そこから、私たちは、クリスチャンらしい歩み…、特に、神様によって救われた光の子どもらしい歩みとは、どのようなものなのか？ということについて、皆さんと一緒に学んでいきたいと思えます。まず初めに、今日の聖書箇所をお読みいたします。

8 あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。

9 ——光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです——

10 そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。

11 実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。

12 なぜなら、彼らがひそかに行っていることは、口にすることも恥ずかしいことだからです。

13 けれども、明るみに引き出されるものは、みな、光によって明らかにされます。

14 明らかにされたものはみな、光だからです。それで、こう言われています。「眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる。」

I・そこには、必ず、良い実 が実る！（8-9節）

前回と前々回の礼拝で、私たちが学んだのは…、神様が私たちを救ってくださって、暗闇から光へと、私たちクリスチャンを変えてくださったのだから、当然、私たちの行ないは変わってくるし…、そこには、必ず、何らかの良い実が結ばれる！ということでした。

しかし、みことばが私たちに教えてくれている良い実とは、必ずしも、世間一般の人が考えているようなものではありませんでした…。例えば、経済的に満たされるとか…、どんな病でも癒されるとか…、仕事がうまくいくとか…。確かに、神様はそういったことをしてくださるかも知れません…。私たちが信じ仕えている神様は、どんなことでも御出来になる方だからです。しかし、例え、そうでなくても…、神様は私たちのことを祝福してくださっている、ということ私たちが決して忘れてはなりません！神様のなしてくださることは、常に、良いこと…、最善なことだけです。経済的に満たされることが最善なら、神様はそうして下さいます…。でも、その反対に、経済的に困窮することが最善なら、神様はそうされるのです…。そういったことが、私たちには必要だからです！

神様の結んでくださる実とは、まずは…、私たちクリスチャンです！これまた、先週学んだように、それは必ずしも、教会の信者が増やされる…、ということではありません…。救われた私たちが暗闇から解放され

て…、明るい光へと変えられたこと…、偽りではなく、真実を知る者へと変えられたことが、まず、神様からの祝福の第1歩なのです。そして…、神様の祝福は、私たちを益々、キリストへ似た者へと変え続けていくくださることなのです！特に、前回学んだのは、御霊の実と言われている…、『愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制』（ガラテヤ 5:22-23）でした。皆さん、素晴らしいと思いませんか？私たちが愛や喜び、平安に満たされたら、それこそが1番じゃないですか！…だって、例え、物質的に恵まれていたり、健康であったとしても、愛や喜び、平安が無い人生って、魅力を感じます？私なら、物質的な繁栄よりも、愛や喜びや平安など…、そういった御霊の実の方を優先します。皆さんだって、そうじゃありません？…実に、そういったものを助け主であられる聖霊なる神様が、私たちに与えていくくださるのです。実は、それこそが、神様の結んでくださる実であり…、神様からの祝福でもあるのです！実際、救われた皆さんは、そういったことを今、経験しておられるでしょ？

実に、そういったことのためにも、私たちクリスチャンは、もっともっと、みことばを学んでいく必要があります。…と言いますのも、神様によって救われた私たちは、もっともっと、神様のみこころを知っていく必要があるからです！神様からのメッセージである、この聖書を学ぶことがなければ、私たちは神様のみこころを知る術がありません！このみことばを学ぶことがなければ、私たちは、「経済的に厳しいから、神様に祝福されていない…、病気になるから、神様は私のことを祝福してくださっていない…」というような勘違いをしています。…天の神様は、実に、様々なことを、この聖書のみことばを通して、私たちに語ってくださっています！だから、私たちは、この聖書のみことばを学ばないといけないのです！

II・神が喜んでくださるようなことを行なっていく！（10-12節）

そこまでが前回までに学んだことでした…。そして、今回のみことばの10-12節をご覧くださいと、光の子ども…、つまり、救われた者が歩むべき道について、教えられています。それは…、神様が喜んでくださるようなことを行なっていく！ということ。イエス様を信じて救われた者たちは、自分が救われたいから、みことばに従おうとするものではありません…。自分が救われたから…、また、神様を愛しているから、神様が喜んでくださるようなことをしていきたい！と願うのです。

●それは、私たちが 良い実 を結ぶために必要なことである。

ここ 10 節には、『そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。』とあります。前回のメッセージでお話したように、ここ 10 節は、9 節ではなく…、8 節から続いているみことばです。ですから、ここで、『そのため』とあるのは、つまり…、私たちが光の子どもらしく歩む『ためには』、どうしたら良いのかという…、その歩み方（＝生き方）について教えられてあるのです。

もしも、皆さんが、自分を通して、神様の実を結びたいと思われるなら…、あるいは、それと同じことですが、神様からの祝福に預かりたいのなら…、私たちは、神様の喜んでくださるようなことを考え、神様が喜んでくださるようなことを行なっていくべきです！

なぜなら…、どうぞ、続く 11 節をご覧ください。『実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで…』とありますでしょ。暗闇は、実を結ばないのです…。ちょうど、自然界でも、多くの植物に太陽の光が当たらないと、どうなります？…ほとんど成長しないでしょ？…以前、私たちがエペソ 4:17 以降でも学んだように、かつての私たちは、神様の前に全く無益な存在で、何の…、価値ある実を結ぶこともありませんでした。みことばは、そのことを、このように教えてくれています。ローマ 6:20-21、『20 罪の奴隷であった時は、あなたがたは義については、自由にふるまっていました。21 その当時、今ではあなたがたが恥じているようなものから、何か良い実を得たでしょうか。それらのものの行き着く所は死です。』って…。かつて、罪の奴隷であった時の私たちは、神様から見て…、何の良い実も実らせることができなかったのです…。

また、イエス様も、ヨハネ 15:4 で、こう教えてくださっています。『わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。』と教えてくださったことを、皆さんもよくご存知だろうと思います。

一体どうして、イエス様にとどまらなさと、良い実を結べないのでしょうか？⇒それは、私たちが造られた真の神様を信じないばかりか…、その神様を拒み続けているからです…。これは、先週のメッセージでも引用したみことばですが、Iヨハネ 2:29 に、『もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行う者がみな神から生まれたこともわかるはずで。』とあります。ここで言われている『義』という言葉(δικαιοσύνη)が、特に、「神様を基準とした正義」などを表わす言葉であるということ、先週にお話ししました…。残念ながら、真の神様を信じ、受け入れておられない方々は、どれほど、正しい…、良いことをしておられたとしても、真の神様の素晴らしさを現わしてはられません。だから…、幾ら、私たち人間の目から見て、その方が素晴らしい価値あることをしておられたとしても、真の神様の前には、それが評価されることなく…、全く無益な人生を送っているとされてしまうのです。

しかし、私たちクリスチャンは、そうではありません。コロサイ 1:10 では、こういったことが教えられています。『また、主になつた歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。』と…。⇒ここで言われているのも、如何にして、良い実が結ばれるか、ということです。今、お読みしたみことばには、『あらゆる善行のうちに実を結び…』とありました。その直前にも、『主になつた歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ…』と教えられています。

つまりね、皆さん…。確かに、神様は、私たちを通して…、何らかの良い実というものを結んでくださるのですが、それは、私たちがクリスチャンになっただけで、後は、ポーっとしていれば、神様が良い実を結んでくださるということではありません！そうではなくて、救われた私たちが、神様のみことばに沿った歩みをしていく時に…、神様がそういうことを用いて、何らかの良い実を結んでいってくださるのです。いえ…、もっと言うと、神様の結んでくださる良い実というものが、愛や喜び…、また、平安などといったようなものであるなら、私たちがそういうことを実践していこうと考えた時点で…、もう既に、神様の御働きは始まっているのではないのでしょうか？そう思われませんか？

しかし、いずれにせよ…、私たちは、そういう良い実を結ぶために、イエス様のいのちという…、大きな犠牲によって、救われたのです。そういうことについて、ローマ 7:4 では、こう説明されています。『私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。』⇒ここで教えられてるように、イエス様を信じて、救われた皆さんは…、神であられるイエス様と継ぎ合わされて、一体とされたのです！2000年前に、あのイエス様が十字架上で死んで、葬られたのと同じように…、私たちも罪に対しては、もう死んだはずなのです！そして、3日目に、イエス様が死に罪に対して勝利されて、約束通り、よみがえられたのと同じように、私たちも、もう罪に対しては、勝利で生きる者とされたのです！あの水によるバプテスマは、そういうことの象徴であり、証しなのです！

●クリスチャンたちの特徴＝喜んで、神様に従っていこうとする。

これまた、先週に引用したみことばですが、Iヨハネ 5章で教えられてあったように、イエス様によって、救われた者は、間違いなく、神様を愛する者であって…、その神様への愛ゆえに、救われた者たちは皆、喜んで、神様に従っていこうとするのです。Iヨハネ 5:1-3 には、こうあります。『1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の

子どもたちを愛していることがわかります。3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。』と…。

今、皆さんにお尋ねします…。皆さんは、何のために、今日、このように礼拝に来られましたか？⇒私は、こう答えます。「それは、神様を愛しているからです。また、神様に感謝しているからです！…だから、私は神様が喜んでくださることをしたいと思って、私は毎週の礼拝を捧げています。」…いかがでしょうか？恐らく、皆さんも同じような思いでいらっしゃるのではありません？つまりは…、神様への愛です！神様を愛しているから、毎週の礼拝にも通ってくるし…、神様を愛しているから、みことばに従いたいのです！そうじゃありませんか？

●クリスチャンの役目＝正しい生き方を、模範をもって示していく。

どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻ってください。11節、『実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで…』とありました。このみことばは、私たちが、神様を信じていない方々と…、共同で、何かを一緒にしてはならない、ということをお教えているのではありません。このみことばをよく注意して、観察してみると、『暗やみの“わざに”仲間入りしないで…』とあることから、ここで教えられていることは、所謂、未信の方のことではなく…、“悪い行ないのこと”です。

…と言いますのも、例えば、あのパウロは、当時のコリント教会に、こんな風に教えてくれているからです。Iコリント 5:9-11、『9 私は前にあなたがたに送った手紙で、不品行な者たちと交際しないようにと書きました。10 それは、世の中の不品行な者、貪欲な者、略奪する者、偶像を礼拝する者と全然交際しないようにという意味ではありません。もしそうだとしたら、この世界から出て行かなければならないでしょう。11 私が書いたことのほんとうの意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で、しかも不品行な者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしめる者、酒に酔う者、略奪する者がいたなら、そのような者とはつきあってはいけない、いっしょに食事をしてもいけない、ということです。』⇒このように、パウロが願ったことは、私たちクリスチャンたちが、この世界から出ていくことではありませんでした。そんなことをすれば、私たちは、ますます、神様のみこころから遠ざかっていってしまうでしょう…。

また、イエス様だって、マタイ 5:13-14 で、こう教えてくださっています。『13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。』と教えてくださって、私たちイエス様を信じる者が、教会に…ではなく、この地上に…、この世の中に遣わされたのだ、と教えてくださいました。また、マタイ 28:19 でも、『それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。…』と命じられたことを考えても…、私たちは、救われていない人たちのところへと出ていかないといけません！…もしも、救われたクリスチャンたちが、まるで、修道院のような感じで、この世の中から出て行ってしまえば、それは、明らかに、神様のみこころではありません。

神様のみこころは、今日のみことばの11節後半で、『…むしろ、それを明るみに出さなさい。』とあるように、その人に間違いや問題点を、愛をもって、その人の罪を気付かせてあげることなのです。どうして、そんなことが言えるかと申しますと、実は、ここで、『明るみに出さなさい…』と訳されてある言葉(ἐλέγχω)は、「とがめる、非難する、譴責する、叱る、論破する、誤りを認めさせる。(真相を)暴く、暴露する」というような意味の言葉で、特に、叱責の結果、相手を説得…、あるいは、矯正するようなことを教える単語なのです。ですから、この箇所を、口語訳聖書では、「それを指摘してやりなさい。」と訳していますし…、また、文語訳の聖書でも、「之(これ)を責めよ。」と訳されてありました。

例えば、皆さん。IIテモテ 4:2 に何と書いてあるか、ご存知ですか？『みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。』とあ

る通りです。このみことばが教えてくれているように、私たち説教者は、ある意味、みことばを宣べ伝えることを通して、人々を…、人々の罪を指摘して、それを責め、戒め、矯正することを目的としています。もちろん、そういったことが1番の目的ではありませんが、それだって、主要な目的です。

しかし、現代のある教会などは、「毎日の仕事で疲れて、教会に来てのに、その礼拝で、いろいろと責められたら、ますます、疲れてしまう…。だから、私は、みことばを使って、人々を責めることはしません！」というような牧師先生もおられます。…でも、どうか、皆さん、考えてみてください。果たして、そういったような考えや方向性は、神様に喜ばれることでしょうか？また、神の前に、正しいことでしょうか？

しかし、そのように、私たちが言葉で相手の間違いを指摘する“以上に”、私たちに必要なのは、私たち自身が、まず、真の神様を恐れて…、神様の前に正しく歩んでいくことです。ですから…、例えば、1 ペテロ 3:1-2、『1 同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとなるようになるためです。2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。』とあります。このみことばは、私たちが言葉で、みことばを伝える以上に、私たちの行動や生き方の方が大事なのである！ということを教えてくれています。

また、それと同じ、1 ペテロ 4:3-4でも、こうあります。『3 あなたがたは、異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、情欲、酔酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたものですが、それは過ぎ去った時で、もう十分です。4 彼らは、あなたがたが自分たちといっしょに度を過ぎた放蕩に走らないので不思議に思い、また悪口を言います。』とあります。皆さんも、こういったような経験をお持ちではないでしょうか？

正直、こんな私でも…、こういったことを言われることがあります。「お前…、クリスチャンになってから変わったな…」って…。確かに、私は変わりました！でも、それは、みことばを見てみると、当然です。だって、私たちは、かつての暗闇そのものから光へと変えられたのですから！…でも、暗闇から光へ変えられたのは、私だけではありません！ここにおられる、救われた皆さんだって、同じように、暗闇から光の子どもとして変えられたのです！

残念なことですが…、私たちの周りには、実に、多くの罪がはびこっています。悲しいことに、当の本人たちが、それを罪だと認識していない場合もあるでしょう…。そういったことに対して、私たちクリスチャンは、警鐘を鳴らしていかなければならないのです。「それは間違っていますよ！私たちの造り主なる神様は、そういったことを喜ばれませんよ！すべてを御存知の神様が、いつか必ず、あなたのことを裁かれる日が来ます！」って…。そうじゃないでしょうか？

どうぞ、今日のみことばの 12 節をご覧ください。『なぜなら、彼らがひそかに行っていることは、口にすることも恥ずかしいことだからです。』⇒ここで言われている、『彼ら…』とは、明らかに、まだ、イエス様をお信じていない、ノンクリスチャンたちのことです。そんな…、真の神様を知らないような者たちでさえ…、公にできないような…、恥ずかしく思っているようなことを、私たちはチャンスがあれば、「間違っている」ということを教えていってあげないといけないのです！

どうぞ、皆さん。少し前にも引用した、ヨハネ 3:16-21をご覧くださいませ？『16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったため、すでにさばかれています。19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行いが悪かったからである。20 悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。21 しかし、真理を行う者は、光のほうに来る。その行いが神にあってなされたことが明らかにされるためである。』

私たち…、ヨハネ 3:16-17 は引用することは多くあっても、その後の 18 節以降は、あまり参照しないことが多いかも知れません…。このみことばは、少し前のメッセージの時に引用しましたが、イエス様を信じることを拒み続けている人は、今もう既に、神様の恵みを逃しているが故に、裁きを受けているのも当然である、と言うのです！

だって、そういった方々は、真理や正しいことが明らかにされるところに来ようとしなくてしょ。自分の罪や間違いを指摘されることを恐れて…、明るい…、『光のほうに』来ようとしませんか！でも、イエス様を信じて、救われた者は違います。その人は、もはや暗闇ではなく、光へと変えられたから…、ますます、光の方に来ようとするのです。先程読んだ 21 節に、何とありました？『しかし、真理を行う者は、光のほうに来る。その行いが神にあってなされたことが明らかにされるためである。』…つまり、その人には、やましいところがないが故に…、また、やましいところがあったとしても、自分が清められたいが故に、自分から進んで、光の方に向かって来るのです…。

皆さん、うらやましいと思いませんか？願わくは、こういう生き方をしたくありません？…でも、どうか、安心して下さい。救われた皆さんは、神様によって、こういった生き方ができる者へと変えられたのです！確かに、完璧ではありません…。特に、私たちの動機など…、私たちの心の中においては…。でも、私たちは、明らかに、イエス様を信じ、救われる前とは変わったはず。信じる前は、自分の間違いや罪が指摘されたりすることがイヤだった…、できれば、耳を塞いでしまいたかった…。しかし、イエス様を信じて、救われたら…、自分の罪や間違いが示されることが、以前ほど、イヤじゃなくなったのではないのでしょうか？

私たちは、みことばを聞いて、聖書から自分の罪や弱さ…、また、至らなさを気付かされても喜べるし、感謝できるのです！だって…、そんな私を神様が愛し、救ってくださったということを…、私たちは、同時に学ぶからです。確かに、私たちには、今なお、罪も弱さもありますが、そういった部分を神様は変えていってくださるから…、私たちは、それでも希望を持っていくことができるのです！まさしく、今、お読みした、『真理を行う者は、光のほうに来る。その行いが神にあってなされたことが明らかにされるためである。』ということなのです！

III・イエス様 だけを信頼して、歩いていく！(13-14 節)

最後、3つ目のポイントです。光の子どもらしい…、救われた者にふさわしい歩みとは、どのようなものなのでしょう？それは、イエス様だけを信頼して、歩いていく！ということ。今日のみことばの 13-14 節には、こう記されてあります。

13 けれども、明るみに引き出されるものは、みな、光によって明らかにされます。

14 明らかにされたものはみな、光だからです。それで、こう言われています。「眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる。」

●ここで言われている、『光』とは何でしょう？

まず、ここで言われている、『光』とは何でしょうか？⇒どうか、今日のみことばの 8 節を思い出してください。『今は、主にあって、光となりました…』と書かれているように、まずは、救われた私たちクリスチャンたちのことです！そうして、その時に学びましたが…、ここ 8 節に、『主にあって…』と書かれているように、私たちの主なるイエス様こそが、私たちの光の源です！だから、今読んだ 14 節最後の部分でも、『キリストが、あなたを照らされる…』とあるのです。

私たちクリスチャンは、真の神であられるイエス様を知り…、キリストに似た者へと変えられていっているが故に、そのような…、悪を善に変える力…、罪を正義に変えるような…、そのような素晴らしい務めを与えられたのです！それは、ちょうど、病原菌などが太陽の光で死んでしまうのと同じようなものです。

今日のみことばの 14 節で引用されてある、この言葉は、恐らくは、当時の賛美歌の一部か、あるいは、イザヤ 60:1 の引用であろうとされています。そこでは、『起きよ。光を放て。あなたの光が来て、【主】の栄光があなたの上に輝いているからだ。』と記されています。ここで、パウロが言わんとしていることは、敢えて、光のもとに来ようとする者たちに対するものではないか、と私は思っています。『眠っている人よ』と、パウロは呼びかけます。『目をさませ。死者の中から起き上がれ。』と言って、自分の罪を正しく認めて…、真の神様に立ち返るように、うながしているのではないのでしょうか？「そうすれば、必ずや、イエス様が、あなたを変えてくださる！あなたが進むべき道を示してください！」と言うのです。

<励ましの言葉>

私たちクリスチャンは、イエス様から、真の光をいただきました。それ故に、光とされたのです！その私たちの責任は…、この地上にあって、暗闇となっている人々に対して、このキリストにあって、救いがあることを明らかにしていくことです。このキリストにあって、本当の罪の赦しが…、罪からの救いや永遠の祝福が与えられるのです。この…、イエス・キリストだけが真の神様であり…、救い主であられることを明らかにしていくのです。

そうしたことのために、まず、私たちが真の神様を知った者の生き方をしていないで、どうして、人々に、真の神様のことを伝えることができるでしょうか？「神様は、罪を裁かれる御方だ！」と言いながら、私たちが、罪を平気で犯して…、どうして、私たちが光としての…、証しができるでしょうか！また、「神様は聖い御方だ！」と言いながら、私たちクリスチャンが、いい加減な生き方をしている、神が喜ばれるでしょうか？未信の方たちが、そんな私たちのメッセージに耳を傾けてくれるでしょうか？

ですから、私たちは、まず何よりも、自分自身の生活を吟味しつつ…、私たちの模範であられるイエス様だけを見上げて歩いていくべきです。イエス様は、私たちに弟子たちに、こうおっしゃってくださいました…。マタイ 5:16、『このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』…これこそ！神様が、救われた私や皆さんに対して…、光の子どもとされたクリスチャンに対して、期待しておられることです！

どうぞ、神様の素晴らしさや、神様の偉大なる御性質を現わしていく証し人として…、今週1週間も歩いていってくださいことを心から期待いたします…。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。